

## 小学校低学年用国語科教科書に見られる オノマトペに関する考察

——他学年・他教科用教科書に見られるオノマトペとの比較から——

小峰 咲季\*・黒木 晶子\*\*

A Study of Onomatopoeia in Elementary School Lower-Grade Japanese Language Textbooks:  
A Comparison of Onomatopoeia in Textbooks for Other Grades and Subjects

Saki KOMINE\* and Akiko KUROKI\*\*

### 1. はじめに

私たちは、日常生活の中で様々なことばを目にし、話している。その中でもオノマトペは、日常生活の中で多く用いられており、豊かな表現力を持つことばとして知られている。例えば、店に並ぶパンについて「ふんわり」<sup>(1)</sup>「もっちり」<sup>(2)</sup>などのオノマトペで特徴を表現したり、雨が降っているときには「ザーザー」や「ぽつぽつ」などのオノマトペで雨の様子を表現したりすることがある<sup>(3)</sup>。また、幼い子どもに対して子どもの養育者である保護者や保育者が話をする際に使用する育児語<sup>(4)</sup>としてのオノマトペがある。それに加え、保育所や家庭などの読み聞かせや読書の際にはオノマトペ絵本などを使用することもあるため、特に幼い頃はオノマトペにふれ合う機会が多くなる。このように、ふれ合うオノマトペの種類や頻度に違いはあるが、私たちは年齢に関係なくオノマトペを日常生活の中で使用している。また、小学生になれば誰もが一律教科書を受け取り、その中にあるオノマトペとふれ合い、学ぶことができるようになる。これは国語科に限ったことではなく、生活科や音楽科など他の教科で用いられているオノマトペも子どもたちがふれ合い、学ぶことができることとなる。教師がこれらのオノマトペ

を使用することによって、子どもたちが活動の見通しをもちやすくなったり、文章の情景が浮かびやすくなったり、といった教育的効果があると考えられる<sup>(5)</sup>。

したがって、本研究では、子どもたちの学びの一部となる教科書の中にあるオノマトペを抽出・分析することによって、その特徴について考察していきたいと考える。具体的には、小学校低学年用国語科教科書に見られるオノマトペを調査対象として分析を進めていく。特に、その出現傾向、種類、統語的特徴を明らかにしていく。また、他教科・他学年の教科書に現れるオノマトペとの比較も行っていく。

### 2. 先行研究のまとめ

教科書教材に見られるオノマトペに関する研究は多数行われている。その中で、国語科教科書に見られるオノマトペの先行研究としては、王（2019）が、日本語教育での活用を目的として、小学校中高学年（4～6年生）用国語科教科書に含まれるオノマトペの出現量を、学年別・テキストジャンル別に調査し、オノマトペの使用量がどのように変化しているか、また、学年やテキストジャンルの差を超えて安定的に使用されているオノマトペにどのようなものがあるのかの特定を目指している。その結果、オノマトペの使用量は学年が上がるにつれ減少し、情報系文章よりも創作系文章のほうで多用されられている。また、独自指標と既存のリストとを比較することにより、「しっかり」「ずっ

\* 兵庫教育大学大学院学校教育研究科修士課程 院生（教育学科1期生）

\*\* 本学教授

「ゆっくり」など13語の重要オノマトペを抽出している。また、読解指導と関連して、中里(2005)は、オノマトペを体系的に取り扱うことを念頭におき、文学作品における読み取りや表現効果に関わる語彙として、読解指導にどうつなげていけるのかを考察している。オノマトペの定義や名称を確認後、国語科において指導する上での特徴を整理し、教科書教材「わらぐつの中の神様」(小学校5年生対象)を例に取り、読解指導とオノマトペの関係性について検討している。その結果、オノマトペは直接的・感覚的な語群であり、その多くが個性的・創作的なものであり、意味内容が語音と語形に大きく関係しており語音と語形には共通感覚があるという特徴があるとしている。さらに、このような特徴をふまえて読解指導においてオノマトペに着目することで、より深く読みとれる事柄(人物像、人物の心情)があるとしている。

教師発話や指導に用いられるオノマトペに関する研究も散見できた。妻藤(2021)は、図画工作科における技能の育成を図るため、容易かつ効果的な指導法としてオノマトペを用いた指導を試み、指導に有用なオノマトペを探り、その効果を検証している。その結果、オノマトペによる説明で具体的に動作をイメージすることができ、オノマトペと実際に見るという活動を併用することで、オノマトペでイメージした行為を確かなものにすることができるとしている。そして、オノマトペにより共通の行為につながったことは、学校現場でも一斉指導を確かなものにするとともに、効率のよい指導ができることを期待させるとしている。また、特別支援学校の教師発話に含まれるオノマトペの教育的効果として、高野・有働(2010)は、知的障害児に対する教育的支援において、教師発話が行われる指導上の文脈を明らかにし、その上で、発話に含まれるオノマトペと指導上の文脈との関連性を検討している。その結果、オノマトペは個人に向けた指示、応援、解説の教育的行為に多く用いられることがわかったとしている。そして、同じ教育的行為の教師発話に含まれるオノマトペは、ある程度共通する表現形式上の特徴をもっており、その特徴により、意味のみ

ならず身体動作の微妙なニュアンスを伝え、リズムを調整すること、オノマトペを含めてマルチモダルな提示を期待されて使用されていることが明らかになったとしている。

オノマトペの統語的分析に関する研究は、数は少ないがいくつか見られた。笹本(2007)は、オノマトペが名詞修飾する際の統語現象を取り上げ、その形態と意味の関係について考察している。その結果、「ーり」「ー撥音」「ー促音」の形をとるものは、「～ノN」型の名詞修飾をしないこと、擬音語は名詞修飾しないこと、オノマトペと組み合わさる動詞が固定的なものやオノマトペが表す語彙の意味がある特定の動きの様子を限定するようなものは、名詞修飾しない傾向にあることがわかったとしている。そして、名詞修飾する場合の形式「～ノN」と、「～スルN」「～シタN」「～シテイルN」とを、オノマトペの音韻的特徴、語彙の意味の特徴とのかかわりから考察し、さらに、各成分をとりながら名詞を修飾する統語的な特徴をもつものについても分析している。三上(2002)は、日本語教育で使用される市販のテキストや教材に含まれるオノマトペの調査と分析を行い、基本オノマトペの選定や今後のオノマトペ指導に向けての方策を検討している。基本オノマトペの統語的考察に関しては、選定した基本オノマトペにどのような文成分が接続するのか、さらに、オノマトペが副詞として用いられる場合、どのような動詞が共起するのかを例を示しながら整理している。田守・スコウラップ(1999)は、オノマトペとは何かを述べた上で、音韻・形態的、統語的、意味的に考察し、語はどのような場合にオノマトペであるのかといった範疇化にかかわる問題を日本語と英語のオノマトペを比較しながら概観している。日本語のオノマトペを統語的に分析することによって、副詞用法(状態副詞、結果副詞、程度副詞、頻度副詞)、動詞用法(「ーする」動詞、「ーつく」動詞、その他の派生動詞)、名詞用法(単独の名詞、複合名詞)、形容詞/形容動詞、引用用法、文外独立用法、動詞省略という7つの用法に分類している。また、副詞用法に関しては、助詞との共起についても詳しく整理している。

### 3. 研究の目的および方法

#### 3.1 研究の目的

2で述べたように、教科書教材や教師発話、指導に用いられるオノマトベに関する研究は既に数多く行われている。小学校国語科教科書に見られるオノマトベに関する先行研究もいくつか存在している。それらの先行研究では、重要オノマトベを抽出したり読解指導との関連を図ったりしている。しかし、研究対象が小学校中高学年や1つの教科書会社と限られており、調査の余地があると考えられる。また、日本語教育の観点から教科書に見られるオノマトベの統語的分析を行っている先行研究もあるが、その研究数は多くはない。しかし、統語的な分析を行うことによって、オノマトベの文法的な働きを知ることができる。これは、国語科の場合、オノマトベが修飾していることばや表現している様子などに焦点を当てた、内容理解や情景をイメージする際などの指導につなげることができるのではないかと考える。

そこで、本研究では、小学校全学年の国語科教科書および国語科以外の教科の小学校低学年用教科書を調査対象としてオノマトベを抽出し、その出現傾向、種類、統語的特徴を明らかにしていく。国語科教科書については、テキストジャンル別<sup>(6)</sup>に調査していく。本研究の調査結果を、国語科および他教科の授業場面におけるオノマトベを用いた効果的なことばかけや指導に活かしていきたいと考える。

本研究では、まず、下記の①～③について調査した後、2つの研究課題について明らかにすることを目的とする。

#### 【調査事項】

- ①小学校低学年用国語科教科書に見られるオノマトベのテキストジャンル別の出現傾向、種類、統語的特徴
- ②小学校中高学年用国語科教科書に見られるオノマトベのテキストジャンル別の出現傾向、種類、統語的特徴
- ③国語科以外の小学校低学年用教科書に見られるオノマトベの教科別の種類及び統語的特徴

#### 【研究課題】

- 課題1 小学校低学年用国語科教科書及び小学校中高学年用国語科教科書に見られるオノマトベを比較してわかること
- 課題2 国語科及び他教科の小学校低学年用教科書に見られるオノマトベを比較してわかること

#### 3.2 研究の方法

研究方法としては、まず、調査対象となる教材を選定し、その教材からオノマトベを抽出した。その後、国語科については、テキストジャンル別のオノマトベの出現傾向を見るために、各教材の文の総数を調査し、そのうちオノマトベが現れる文の数の割合を算出した<sup>(7)</sup>。

そして、それらのオノマトベを擬態語や擬音語、擬声語などの種類に分類し、さらに統語的特徴について調査した。本研究では、『日本語オノマトベ辞典：擬音語・擬態語4500』（以後、『日本語オノマトベ辞典』）での記載を参考にしながら、擬態語、擬音語、擬声語、その他の4つに分類した。それぞれの定義は、田嶋（2006）から引用した。（以下、提示する用例は、本研究で採集したものである。）

擬態語：動作、事物の様態、状態を表したことば

- (1) 水中をすいすいおよぎます。

（1年生国語科「めだかのぼうけん」、  
学校図書下巻）

擬音語：擬声語以外の音を表したことば

- (2) はっぱががさがさ鳴って、とかげがあらわれた。

（2年生国語科「アレクサンダとぜんまいねずみ」、  
教育出版下巻）

擬声語：鳴き声や人の声を描写したことば

- (3) チンチロリン、チンチロリンと、松虫が鳴いています。

（4年生国語科「ごんぎつね」、光村図書下巻）  
その他：使用される文脈において複数のオノマトベの種類（擬態語、擬音語、擬声語）に該当すると考えらえることば<sup>(8)</sup>

- (4) 子どもたちからは、「ニンジンのかたくてガリガリかじらなくちゃいけないから

『一ガリ、二ガリ』です。』

(4年生国語科「数え方を生みだそう」、  
東京書籍下巻)

オノマトベの統語的特徴の調査を行うにあたっては、田守・スコウラップ(1999)において提示されている統語的特徴を参考にした。

以下、本研究で調査対象とした統語的特徴を提示する。

副詞用法：オノマトベが副詞として機能するものの<sup>(9)</sup>

様態副詞：動作の様態や状態を表すもの

(5) だけど、ろくべえは、びくりともうごきません。

(1年生国語科「ろくべえまってるよ」、  
学校図書下巻)

結果副詞：オノマトベが動詞によってもたらされた新しい状態を表すもの

(6) ほこりまみれになり、くたくたにつかれ、ようやく宝塚の家にたどり着いた。

(5年生国語科「手塚治虫」、東京書籍)

程度副詞：状態性の意味を持つことばにかかってその程度を限定するもの

(7) もつとしりたい

(3年生国語科「なにかをひとつ」、  
学校図書下巻)

アスペクトの副詞：事態の発生や展開に関する事柄を表すもの

(8) いよいよ海のどうぶつたちのショーがはじまります。

(2年生国語科「水ぞくかんのしいくいん」、  
学校図書下巻)

モダリティの副詞：モダリティ機能を持つもの

(9) きつねは、きつとお礼がほしいのでしょう。

(6年生国語科「きつねの窓」、教育出版下巻)

動詞用法：オノマトベ自体やその一部の要素が少数の動詞語尾と結びついて、動詞の役割を果たすもの

(10) ヤモは、がっかりして、道ばたにすわりこみました。

(4年生国語科「世界一美しいぼくの村」、

東京書籍下巻)

名詞用法：単独で名詞の役割を果たすものと、副詞的なオノマトベと動詞から構成される動詞句が名詞化したものや、副詞的なオノマトベと名詞が結合して複合名詞として働くもの

(11) ぼくよりもどきどきがはやくてびっくりしました。

(1年生生活科、啓林館)

形容詞/形容動詞：「に」を伴って結果副詞として機能できたり、「の」を伴って名詞を修飾できたり、「だ」を伴って述語になることもできたりするもの

(12) お父さんのくつを、びかびかに光らせておいたこともあります。

(3年生国語科「おにたのほうし」、  
教育出版下巻)

動詞省略：「一する」や「一だ」、または一般動詞が省略されたもの

(13) おちないようにゆっくり、ゆっくり。

(1・2年生図画工作科、開隆堂出版)

引用用法：擬音オノマトベを引用的に表したもののや、引用符や感嘆符を付けて表したもの

(14) しきりに鳴き立てるが、ゲエゲエという声しか出ない。

(6年生国語科「山へ行く牛」、学校図書下巻)  
文外独立用法：オノマトベ自体で文外に独立して起るもの

(15) ぐらぐら、ぐらぐら。

(1年生国語科「おかゆのおなべ」、  
光村図書下巻)

雌子詞：文中でリズムをとることば

(16) 「しみ雪しんしん、かた雪かんかん。」

(5年生国語科「雪わたり」、教育出版下巻)

以上の8つの統語的特徴のいずれに該当するか、抽出したオノマトベについて調査した。なお、雌子詞については、田守・スコウラップ(1999)の統語的特徴に該当するものがなかったため、本研究において新たに追加したものである。

オノマトベの種類および統語的特徴について



は、以上提示した下位区分に該当するオノマトベの数（延べ語数）を数えた。

### 3.3 調査対象

本研究では、小学校低学年用国語科教科書、小学校中学年用国語科教科書、国語科以外の教科（算数科、図画工作科、音楽科、生活科）<sup>(10)</sup>の小学校低学年用教科書に見られるオノマトベについて調査した。

文部科学省（2021）によると、令和4年現在で使用されている小学校国語科教科書は東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書の4種類が存在する。本研究では、これら4種類の教科書に収録してある、各教科書会社が設定している読むこと教材を調査対象とした。具体的には、東京書籍は領域別単元一覧、学校図書は読むこと教材一覧、教育出版は領域別教材一覧、光村図書は単元系統一覧表に掲載されているものとした。各教科書会社の一覧表では、読むこと教材は文学的文章、説明的文章、詩の3ジャンルに分けられている。

なお、教育出版1年生における読むこと教材は全て下巻のものであった。そのため、調査対象を統一するために、下巻のみを調査対象とし、上巻と下巻に分かれていない東京書籍5・6年生と光村図書5・6年生は1冊全てを調査対象とした。また、異なった教科書や学年で同じ教材が使用されていた場合は、先に調査した教科書と低い学年を優先した。

以上のようにして調査したところ、全168教材のうち、オノマトベが使用されている教材は127教材であった。文学的文章は、全60教材のうち全ての教材でオノマトベが使用されていた。説明的文章は、全65教材のうち44教材でオノマトベが使用されていた。詩は、全43教材のうち23教材でオノマトベが使用されていた。

また、令和4年現在で使用されている国語科以外の教科（算数科、図画工作科、音楽科、生活科）の小学校低学年用教科書は、算数科は東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館、日本文教出版の6種類、図画工作科は開隆堂出版、日本文教出版の2種類、音楽科は教育出版、教育芸術社の2種類、生活科は東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、信州教

育出版、光村図書、啓林館、日本文教出版の8種類が存在する。そのうち、本研究では、調査対象として、筆者の出身地である長崎県と大学のある広島県で広く使用されているものから各2種類<sup>(11)</sup>を取り上げた。

## 4. オノマトベの定義

高野・有働（2010）は、オノマトベは音から意味を想起しやすい音象徴的な要素を含む感性ことばであるとし、音や物の様子を言語音で表現したことばで、繰り返しを含むことば、あるいは、プロソディーを含み、かつ身体動作やジェスチャーを伴いやすいことばと定義している。また、笹本（2007）は、オノマトベは、音象徴語や擬音語・擬態語・擬情語などと呼ばれる音韻的特徴を持つ語であり、事物の音や様子、動きや属性など、さまざまな語彙の意味を表すとしている。田守（1998）は、オノマトベは、英語では、「命名する」という意味のギリシャ語に由来する *onomatopoeia* であり、「音の模倣によって物事や動作を命名したり、それに対することばをつくったりすること」、ないしは、「このような方法によってつくられたことば」と定義されるとしている。また、日本語オノマトベを詳しく分類し、擬音オノマトベ（音として聞こえるもの）と擬態オノマトベ（音として聞こえないもの）に大別されるとしている。よって、本研究におけるオノマトベとは、「擬態語や擬音語に分類されるような音象徴的なことばであり、物事や動作などを示すもの」と定義する。

本研究で扱うオノマトベは、『日本語オノマトベ辞典』に収録されているものとする。また、『日本語オノマトベ辞典』に収録がなくとも、田守・スコウラップ（1999）で示されている日本語オノマトベの音韻形態<sup>(12)</sup>をもつものもオノマトベとする。また、この両者に含まれないが、『日本語オノマトベ辞典』に似たような意味の語があった場合や文脈から見てオノマトベと見なせる場合もオノマトベとして扱う。

## 5. 結果と考察

### 5.1 小学校低学年用国語科教科書に見られるオノマトベ

オノマトベの出現傾向について、小学校低学

年用国語教科書を対象に調査したところ、表1からわかるように、2年生では、詩がオノマトベを含む文の割合が最も大きく、1年生でも、文学的文章に次いでではあるが、詩で、文学的文章の場合とほとんど変わらずオノマトベを含む文の割合が、全体の2割以上と大きくなっていった。また、1年生、2年生いずれも説明的文章におけるオノマトベを含む文の割合が最も小さく、全体の1割に満たないという共通点が見られた。

表1 小学校低学年用国語教科書の読むこと教材に見られるオノマトベを含む文の数と全文に占める割合

学年	テキストジャンル	全文	オノマトベを含む文	オノマトベを含む文の割合
1年生	文学的文章	490	108	22.0%
	説明的文章	161	12	7.5%
	詩	46	10	21.7%
	合計	697	130	18.7%
2年生	文学的文章	595	84	14.1%
	説明的文章	294	25	8.5%
	詩	43	13	30.2%
	合計	932	122	13.1%

オノマトベの種類に関しては、表2からわかるように、1年生、2年生いずれも、どのテキストジャンルにおいても擬態語が最も多く使用されていた。一方、擬音語、擬声語は説明的文章では使用されておらず、擬声語は1年生の文学的文章を除いて使用されていなかった<sup>(13)</sup>。

表2 小学校低学年用国語教科書の読むこと教材に見られるオノマトベの種類

学年	テキストジャンル	擬態語	擬音語
1年生	文学的文章	71 66.4%	2 1.9%
	説明的文章	11 91.7%	0 0.0%
	詩	2 100.0%	0 0.0%
	合計	84 69.4%	2 1.7%
2年生	文学的文章	43 67.2%	6 9.4%
	説明的文章	19 95.0%	0 0.0%
	詩	8 72.7%	3 27.3%
	合計	70 73.7%	9 9.5%

擬声語	その他	合計
3 2.8%	31 29.0%	107 100.0%
0 0.0%	1 8.3%	12 100.0%
0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%
3 2.5%	32 26.4%	121 100.0%
0 0.0%	15 23.4%	64 100.0%
0 0.0%	1 5.0%	20 100.0%
0 0.0%	0 0.0%	11 100.0%
0 0.0%	16 16.8%	95 100.0%

統語的特徴について見たところ、表3からわかるように、文学的文章、説明的文章では、1年生、2年生いずれも副詞用法の割合が最も大きかった。さらに、副詞用法の下位区分を調べたところ、表4からわかるように、文学的文章、説明的文章では、1年生、2年生いずれも様態副詞が最も大きな割合を占めていた。

一方、詩においては、表3からわかるように、統語的特徴で最も割合が大きかったのは、1年生は文外独立用法、2年生は動詞省略であり、説明的文章、文学的文章の場合とは異なっており、テキストジャンルによる違いが見られた。

表3 小学校低学年用国語教科書の読むこと教材に見られるオノマトベの統語的特徴

学年	テキストジャンル	副詞	動詞	名詞	形容詞/形容動詞
1年生	文学的文章	91 54.8%	5 3.0%	2 1.2%	2 1.2%
	説明的文章	9 75.0%	1 8.3%	0 0.0%	2 16.7%
	詩	2 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	合計	102 54.3%	6 3.2%	2 1.1%	4 2.1%
2年生	文学的文章	63 62.4%	11 10.9%	3 3.0%	1 1.0%
	説明的文章	22 71.0%	4 12.9%	0 0.0%	0 0.0%
	詩	5 38.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	合計	90 62.1%	15 10.3%	3 2.1%	1 0.7%

  

動詞省略	引用	文外独立	囁き詞	合計
3 1.8%	12 7.2%	51 30.7%	0 0.0%	166 100.0%
0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 100.0%
1 10.0%	0 0.0%	7 70.0%	0 0.0%	10 100.0%
4 2.1%	12 6.4%	58 30.9%	0 0.0%	188 100.0%
2 2.0%	20 19.8%	1 1.0%	0 0.0%	101 100.0%
0 0.0%	1 3.2%	4 12.9%	0 0.0%	31 100.0%
8 61.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	13 100.0%
10 6.9%	21 14.5%	5 3.4%	0 0.0%	145 100.0%

表4 小学校低学年用国語教科書の読むこと教材に見られるオノマトベの副詞用法

学年	テキストジャンル	様態副詞	結果副詞	程度副詞
1年生	文学的文章	49 53.8%	0 0.0%	22 24.2%
	説明的文章	8 88.9%	0 0.0%	0 0.0%
	詩	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%
	合計	57 55.9%	0 0.0%	24 23.5%
2年生	文学的文章	37 58.7%	1 1.6%	13 20.6%
	説明的文章	11 50.0%	0 0.0%	5 22.7%
	詩	5 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
	合計	53 58.9%	1 1.1%	18 20.0%

アスペクトの副詞	モダリティの副詞	合計
14 15.4%	6 6.6%	91 100.0%
1 11.1%	0 0.0%	9 100.0%
0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%
15 14.7%	6 5.9%	102 100.0%
9 14.3%	3 4.8%	63 100.0%
5 22.7%	1 4.5%	22 100.0%
0 0.0%	0 0.0%	5 100.0%
14 15.6%	4 4.4%	90 100.0%

## 5.2 小学校中高学年用国語教科書に見られるオノマトベ

オノマトベの出現傾向について、小学校中高

学年用国語教科書を対象に調査したところ、表5からわかるように、オノマトベを含む文の割合が大きいものから見ると、3年生のみ、詩、文学的文章、説明的文章の順であった。一方、4年生以上は、文学的文章、詩、説明的文章の順になっていた。

表5 小学校中高学年用国語教科書の読むこと教材に見られるオノマトベを含む文の数と全文に占める割合

学年	テキストジャンル	全文	オノマトベを含む文	オノマトベを含む文の割合
3年生	文学的文章	540	105	19.4%
	説明的文章	282	14	5.0%
	詩	73	27	37.0%
	合計	895	146	16.3%
4年生	文学的文章	754	208	27.6%
	説明的文章	453	27	6.0%
	詩	42	4	9.5%
	合計	1249	239	19.1%
5年生	文学的文章	1766	374	21.2%
	説明的文章	578	26	4.5%
	詩	77	8	10.4%
	合計	2421	408	16.9%
6年生	文学的文章	2094	354	16.9%
	説明的文章	658	30	4.6%
	詩	140	12	8.6%
	合計	2892	396	13.7%

オノマトベの種類については、表6からわかるように、3年生以外では、どのテキストジャンルにおいても擬態語が最も多く使用されていた。3年生では、文学的文章、説明的文章では擬態語が最も多く使用されていたが、詩では擬音語が最も多く使用されていた。擬音語は、文学的文章ではいずれの学年でも見られたが、説明的文章、詩では、3年生の詩、5年生の説明的文章以外では使用されていなかった。擬声語は、4年生、5年生の文学的文章においてのみ見られた。

統語的特徴について見たところ、表7のような結果であった。表7から、文学的文章、説明的文章では、いずれの学年も副詞用法の割合が最も大きいことがわかる。これは、低学年用国語教科書の場合と同様の結果である。さらに、副詞用法の下位区分について調べたところ、表8からわかるように、3年生、6年生の説明的文章を除いて様態副詞の割合が最も大きかった。3年生、6年生の説明的文章では、程度副詞の割合が最も大きかった。

一方、詩の場合、表7からわかるように、4年生、5年生では副詞用法が最も大きな割合を占めていたが、3年生、6年生では文外独立用法が最も大きな割合を占めており、文学的文章、説明的文章の場合とは異なっており、テキストジャンルによる違いが見られた。

表6 小学校中高学年用国語教科書の読むこと教材に見られるオノマトベの種類

学年	テキストジャンル	擬態語		擬音語		擬声語	
3年生	文学的文章	86	82.7%	3	2.9%	0	0.0%
	説明的文章	7	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
	詩	0	0.0%	14	56.0%	0	0.0%
	合計	93	68.4%	17	12.5%	0	0.0%
4年生	文学的文章	118	62.4%	11	5.8%	3	1.6%
	説明的文章	16	88.9%	0	0.0%	0	0.0%
	詩	4	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
	合計	138	65.4%	11	5.2%	3	1.4%
5年生	文学的文章	201	64.4%	17	5.4%	17	5.4%
	説明的文章	15	83.3%	1	5.6%	0	0.0%
	詩	3	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
	合計	219	65.8%	18	5.4%	17	5.1%
6年生	文学的文章	265	92.0%	7	2.4%	0	0.0%
	説明的文章	15	88.2%	0	0.0%	0	0.0%
	詩	5	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
	合計	285	91.9%	7	2.3%	0	0.0%

その他	合計
15 14.4%	104 100.0%
0 0.0%	7 100.0%
11 44.0%	25 100.0%
26 19.1%	136 100.0%
57 30.2%	189 100.0%
2 11.1%	18 100.0%
0 0.0%	4 100.0%
59 28.0%	211 100.0%
77 24.7%	312 100.0%
2 11.1%	18 100.0%
0 0.0%	3 100.0%
79 23.7%	333 100.0%
16 5.6%	288 100.0%
2 11.8%	17 100.0%
0 0.0%	5 100.0%
18 5.8%	310 100.0%

本研究で、統語的特徴のタイプとして新たに追加した囃子詞は、表7からわかるように、3年生の詩と5年生の文学的文章で見られた。

(17) しばらくしいんとなりましたので、二人はも一度さけぼうとして息をのみこんだ時、森の中から、「しみ雪しんしん、かた雪かんかん。」と言いながら、キシリキシリ雪をふんで、白いきつねの子がでてきました。

(5年生国語科「雪わたり」、教育出版下巻)  
(17) では、オノマトベが「しみ雪」「かた雪」

に対して調子をとるように使用されている。この少し後にも、「きつねこんこん白ぎつね」とあり、オノマトベが間に入ることで独特のリズムが生まれていると考えられる。

表7 小学校中低学年用国語教科書の読むこと教材に見られるオノマトベの統語的特徴

学年	テキストジャンル	副詞	動詞	名詞	形容詞/形容動詞
3年生	文学的文章	87 65.4%	18 13.5%	6 4.5%	2 1.5%
	説明的文章	11 84.6%	2 15.4%	0 0.0%	0 0.0%
	詩	3 7.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	合計	101 53.4%	20 10.6%	6 3.2%	2 1.1%
4年生	文学的文章	140 45.0%	25 8.0%	21 6.8%	0 0.0%
	説明的文章	22 73.3%	7 23.3%	0 0.0%	1 3.3%
	詩	3 60.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	合計	165 47.7%	32 9.2%	21 6.1%	1 0.3%
5年生	文学的文章	271 51.4%	47 8.9%	3 0.6%	5 0.9%
	説明的文章	22 73.3%	1 3.3%	0 0.0%	1 3.3%
	詩	6 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	合計	299 52.8%	48 8.5%	3 0.5%	6 1.1%
6年生	文学的文章	317 77.9%	51 12.5%	3 0.7%	4 1.0%
	説明的文章	25 83.3%	5 16.7%	0 0.0%	0 0.0%
	詩	2 16.7%	1 8.3%	0 0.0%	3 25.0%
	合計	344 76.6%	57 12.7%	3 0.7%	7 1.6%

  

動詞省略	引用	文外独立	囁き詞	合計
0 0.0%	7 5.3%	13 9.8%	0 0.0%	133 100.0%
0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	13 100.0%
0 0.0%	0 0.0%	29 67.4%	11 25.6%	43 100.0%
0 0.0%	7 3.7%	42 22.2%	11 5.8%	189 100.0%
4 1.3%	24 7.7%	97 31.2%	0 0.0%	311 100.0%
0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	30 100.0%
0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%	0 0.0%	5 100.0%
4 1.2%	24 6.9%	99 28.6%	0 0.0%	346 100.0%
16 3.0%	37 7.0%	99 18.8%	49 9.3%	527 100.0%
0 0.0%	6 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	30 100.0%
2 22.2%	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	9 100.0%
18 3.2%	43 7.6%	100 17.7%	49 8.7%	566 100.0%
4 1.0%	19 4.7%	9 2.2%	0 0.0%	407 100.0%
0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	30 100.0%
2 16.7%	0 0.0%	4 33.3%	0 0.0%	12 100.0%
6 1.3%	19 4.2%	13 2.9%	0 0.0%	449 100.0%

### 5.3 他教科の小学校低学年用教科書に見られるオノマトベ

オノマトベの種類について、国語科以外の教科（算数科、図画工作科、音楽科、生活科）の小学校低学年用教科書を対象に調査したところ、表9のような結果になった。

表9から、いずれの教科においても、擬態語の割合が最も大きいことがわかる。これは、5.1で見たように、小学校低学年用国語教科書の場合と共通する。特に、特徴的なのは、算数科においては、出現したオノマトベのいずれもが擬態語であったということである。また、音楽科では、擬態語のオノマトベは、他の教科に比べると全体に占める割合が最も少ないが、擬音語および擬声語の割合が、他の教科と異なり、全体の2割以上を占めている。動作や様子を表す擬態語はどの教科においても用いやすいことばであるが、擬音語、擬声語は音のあるものを

表8 小学校中低学年用国語教科書の読むこと教材に見られるオノマトベの副詞用法

学年	テキストジャンル	様態副詞	結果副詞	程度副詞
3年生	文学的文章	58 66.7%	1 1.1%	19 21.8%
	説明的文章	2 18.2%	0 0.0%	7 63.6%
	詩	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%
	合計	60 59.4%	1 1.0%	27 26.7%
4年生	文学的文章	63 45.0%	1 0.7%	39 27.9%
	説明的文章	9 40.9%	0 0.0%	6 27.3%
	詩	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%
	合計	72 43.6%	1 0.6%	48 29.1%
5年生	文学的文章	154 56.8%	4 1.5%	72 26.6%
	説明的文章	9 40.9%	0 0.0%	7 31.8%
	詩	2 33.3%	0 0.0%	4 66.7%
	合計	165 55.2%	4 1.3%	83 27.8%
6年生	文学的文章	208 65.6%	4 1.3%	54 17.0%
	説明的文章	9 36.0%	0 0.0%	10 40.0%
	詩	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%
	合計	218 63.4%	4 1.2%	65 18.9%

アスペクトの副詞	モダリティの副詞	合計
3 3.4%	6 6.9%	87 100.0%
2 18.2%	0 0.0%	11 100.0%
2 66.7%	0 0.0%	3 100.0%
7 6.9%	6 5.9%	101 100.0%
19 13.6%	18 12.9%	140 100.0%
7 31.8%	0 0.0%	22 100.0%
0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%
26 15.8%	18 10.9%	165 100.0%
27 10.0%	14 5.2%	271 100.0%
6 27.3%	0 0.0%	22 100.0%
0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%
33 11.0%	14 4.7%	299 100.0%
31 9.8%	20 6.3%	317 100.0%
4 16.0%	2 8.0%	25 100.0%
0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%
35 10.2%	22 6.4%	344 100.0%

表9 小学校低学年用教科書（算数科・図画工作科・音楽科・生活科）に見られるオノマトベの種類

教科	擬態語	擬音語	擬声語	その他	合計
算数	37 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	37 100.0%
図工	185 81.5%	1 0.4%	0 0.0%	41 18.1%	227 100.0%
音楽	16 31.4%	13 25.5%	14 27.5%	8 15.7%	51 100.0%
生活	151 91.5%	1 0.6%	0 0.0%	13 7.9%	165 100.0%

模倣したことばであるため、歌や楽器などで表現することができる音楽科で多く使用されていると考えられる。このように、教科ごとの傾向が見られる。

次に、統語的特徴について見たところ、表10のような結果になった。

表10から、教科によって、特徴的な用法が見られることがわかる。まず、音楽科では、文外独立用法が全体の8割以上と、大きな割合を占めている。(18)、(19)がその例である。

(18) たらたらたらたらたらたらたら



表10 小学校低学年用教科書（算数科・図画工作科・音楽科・生活科）に見られるオノマトベの統語的特徴

教科	副詞		動詞		名詞		形容詞/形容動詞	
算数	50	78.1%	2	3.1%	10	15.6%	1	1.6%
図工	119	42.5%	19	6.8%	55	19.6%	13	4.6%
音楽	22	13.8%	2	1.3%	0	0.0%	2	1.3%
生活	137	57.1%	40	16.7%	45	18.8%	7	2.9%
動詞省略		引用		文外独立		嚙子詞		合計
1		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	64 100.0%
40		3	1.1%	31	11.1%	0	0.0%	280 100.0%
0		2	1.3%	131	82.4%	0	0.0%	159 100.0%
0		1	0.4%	10	4.2%	0	0.0%	240 100.0%

## たらったらっ

(1年生音楽科、教育芸術社)

## (19) ミーンミンミンミーン

(2年生音楽科、教育芸術社)

(18) は、チャイコフスキー「くるみわり人形～行進曲」の旋律の感じを表現しており、(19) は、セミの鳴き声を表現している。その他の文外独立用法も、旋律の感じや楽器の音色を表現するものであった。

また、生活科では、動詞用法が15%を超えているのが特徴的である（他の教科では、全体の1割に満たない）。

(20) だから、さわるとザラザラしているんだなと思いました。

(2年生生活科、啓林館)

(20) では、トマトの葉を触った感想を表現している。その他の動詞用法も、体験を通しての感想や、動植物やおもちゃなどが動く様子を表現するものであった。

一方、図画工作科では、動詞省略が約14%を占めているのが特徴的である（他の教科では、動詞省略が全く見られないか、見られても1%台である）。

(21) ちからをいれてぎゅっと。

(1・2年生図画工作科、日本文教出版)

(21) には、粘土を用いた作品の創作過程の写真が提示されている。粘土のかたまりに溝を作るという活動を説明しているため、後ろには「ほる」という動詞が復元できる。

(22) 大きなふでに赤い絵のぐをたっぷりつけて、小さなしま、クルリ。

(1・2年生図画工作科、開隆堂出版)

(22) には、子どもが描いた絵の写真が提示さ

れている。絵の具で絵を描くという活動を通して完成した作品であることを説明しているため、後ろには「(と) 描く」という動詞が復元できる。このように、文脈や教科書に提示されている写真から、どのような動詞が省略されているかが容易に復元できる。そして、これらのオノマトベは様態副詞でもありと考えられ、どのように活動を行う（行った）かというポイントを簡潔に示しており、文脈から推測できる動詞をあえて省略することで、活動の重要なポイントに直接的に着目させようとする意図が窺える。

また、副詞用法は、音楽科以外の教科（算数科、図画工作科、生活科）では、最も大きな割合を占めており、音楽科においても、1位の文外独立用法に次いで大きな割合を占めている。

(23) ははじめはゆっくりと、なれてきたら少しずつはやくしてみよう。

(2年生音楽科、教育出版)

(24) あかるいこえて、かしやどれみでのびのびとうたいしましょう。

(1年生音楽科、教育芸術社)

(23) は、「ドレミのトンネル」を鍵盤ハーモニカで演奏する際に使用されており、(24) は、「ひのまる」を音の高さに気をつけながら歌う際に使用されている。

このように、調査対象としたいずれの教科においても、副詞用法の割合が大きいという共通点が見られる。しかし、副詞用法の下位区分について見てみると、教科ごとの傾向が見られる。

表11からわかるように、図画工作科と音楽科では、様態副詞が最も割合が大きいのに対して、算数科と生活科では、程度副詞が最も割合が大

表11 小学校低学年用教科書（算数科・図画工作科・音楽科・生活科）に見られるオノマトベの副詞用法

教科	様態副詞		結果副詞		程度副詞	
算数	22	44.0%	0	0.0%	26	52.0%
図工	72	60.5%	5	4.2%	38	31.9%
音楽	10	45.5%	0	0.0%	6	27.3%
生活	51	37.2%	1	0.7%	64	46.7%

アスペクトの副詞		モダリティの副詞		合計
2	4.0%	0	0.0%	50 100.0%
4	3.4%	0	0.0%	119 100.0%
6	27.3%	0	0.0%	22 100.0%
12	8.8%	9	6.6%	137 100.0%

きくなっている。図画工作科については、上述したように、「描く」などの活動を行う際にどのように行うのかという点が重要であるため、その点をわかりやすく表した様態副詞のオノマトペが用いられていると考えられる。また、音楽科の場合も、(23)のように、どのように楽器を演奏するのか、(24)のように、どのように歌うのかという点が説明としては重要であるため、その点をわかりやすく示すことができる様態副詞のオノマトペが用いられやすいと考えられる。

一方、算数科、生活科では、程度副詞が最も多く使用されていた。

(25) 2年生になったらもっと大きいはずかもぞえてみたいな。

(1年生算数科、啓林館)

(26) くふうするとどんどん楽しくなるね。

(2年生生活科、啓林館)

(25) は、1年生で100までの数を学習したことを復習し、2年生ではさらに大きな数を学びたいという気持ちを表現している。(26) は、身の回りにあるものを使って作る車を工夫することで、速く走らせたり遠くまで走らせたりすることができることの面白さが増していくことを表現している。このように、学んだことを新しい課題や応用的な問題へとつなげることを示す記述が見られ、このような箇所では、程度副詞のオノマトペを用いることで、それらの活動への取り組みを促しているのではないかと考えられる。

さらに、音楽科では、アスペクトの副詞として用いられているオノマトペの割合が他教科よりも大きかった。

(27) だんだんつよくなるところもあったね。

(1年生音楽科、教育芸術社)

(28) ずっととならず

(2年生音楽科、教育出版)

(27) は、音が次第に強くなること、(28) は、「ずっと(と)」というように、演奏する時間が継続することを表している。このように、楽器の演奏や歌唱の場合、「演奏する」「歌う」といった動作が時間とともにどう変化するのかということが問題になることがあり、そのこととの関連で、他の教科に比べてアスペクトの副詞とし

て用いられるオノマトペが現れやすいと考えられる。

## 6. 総合考察

ここでは、以上見てきたことをふまえ、本研究の研究課題について明らかになったことを述べる。

### 6.1 小学校低学年用国語科教科書及び小学校中高学年用国語科教科書に見られるオノマトペを比較してわかること

まず、小学校低学年用国語科教科書に見られるオノマトペを調査したところ、学年で差はあるが、詩および文学的文章においてオノマトペを含む文の割合が大きくなっていた。これは、王(2019)が提示している、小学校中高学年用国語科教科書を対象としてオノマトペの使用頻度を分析した際の、創作系文章(詩・物語文)の方が情報系文章(説明文)よりオノマトペが多用されるという結果と類似した傾向であると言える。また、オノマトペの種類については、どのテキストジャンルにおいても擬態語が最も多く使用されていたが、説明的文章では擬音語、擬声語は使用されておらず、擬声語は1年生の文学的文章を除いて使用されていなかった。さらに、統語的特徴を調査したところ、1年生、2年生いずれも文学的文章、説明的文章では副詞用法の割合が最も大きかったが、詩では文外独立用法(1年生)、動詞省略(2年生)の割合が大きく、テキストジャンルによる違いが見られた。

次に、小学校中高学年用国語科教科書に見られるオノマトペを調査したところ、小学校低学年用国語科教科書の場合と同様、学年で差はあるが、文学的文章および詩においてオノマトペを含む文の割合が大きくなっていた。このことは、小学校低学年用国語科教科書の場合と同様、王(2019)の結果(上述)と類似した傾向である。オノマトペの種類別の割合では、ほとんどの学年で(3年生を除く学年で)、どのテキストジャンルにおいても擬態語の割合が最も大きかったが、擬音語、擬声語については、学年、テキストジャンルによる違いが見られた。統語的特徴について見ると、文学的文章、説明的文章ともに、小学校低学年用国語科教科書の場合

と同様、副詞用法の割合が最も大きかった。しかしながら、詩の場合は、学年によっては、文外独立用法の割合が最も大きく（3年生、6年生の場合）、テキストジャンルによる違いが見られた。

以上の調査結果から、小学校低学年用国語科教科書と小学校中高学年用国語科教科書とでは、オノマトベの出現傾向、種類、統語的特徴を見たときに、いずれもテキストジャンルによる違いが見られるという共通点が指摘できる。そして、そのテキストジャンル別の傾向も、両者で類似した傾向が見られることがわかる。

## 6.2 国語科及び他教科の小学校低学年用教科書に見られるオノマトベを比較してわかること

小学校低学年用国語科教科書と小学校低学年用の算数科・図画工作科・音楽科・生活科の教科書を比較すると、オノマトベの種類については、いずれの教科においても擬態語の割合が最も大きいことがわかる。

また、統語的特徴に焦点を当てると、各教科に共通することとしては、副詞用法が大きな割合を占めていることが挙げられる（音楽科を除くと最も割合が大きい）。一方で、各教科による違いも見られる。たとえば、国語科では引用用法が他の教科に比べて大きな割合を占めている。これは、文学的文章での使用がほとんどであり、(14)のように、物語のキャラクターがことばを発したり鳴いたりする際に用いられており、その場面の様子を具体的に想像できるように使用されていたのではないかと考えられる<sup>(14)</sup>。また、図画工作科で動詞省略の割合が大きいことについては、そこで用いられているオノマトベは様態副詞でもあると考えられ、どのように活動を行う（行った）かというポイントを簡潔に示しており、文脈から推測できる動詞をあえて省略することで、重要なポイントに直接的に着目させようとする意図が窺える。妻藤（2021）は、図画工作科における技能指導でのオノマトベの活用の有効性を指摘し、「オノマトベを技能指導に活用することは、見て真似るだけでは理解の難しい身体感覚や動きまでも伝えることができる」と指摘している。図画工作科の教科書に見られるオノマトベの統語的特徴には、こ

の指摘との関連も推察される。

また、上述した副詞用法に関しては、国語科・図画工作科・音楽科では様態副詞が最も多く使用されていた<sup>(15)</sup>。これらの教科では、文章や作品、音色などを豊かに表現するために、動作や様子を表す様態副詞が多く使用されているのではないかと考えられる。一方、算数科・生活科では程度副詞が最も多く使用されていた。これらの教科では、学んだことを新しい課題や応用的な問題へとつなげる記述が見られ、程度副詞を用いることで、それらの活動への取り組みを促しているのではないかと考えられる。

さらに、音楽科では、アスペクトの副詞としてのオノマトベが他教科よりも大きな割合で使用されていた。楽器の演奏や歌唱の場合、「演奏する」「歌う」といった動作が時間とともにどう変化するのかということが問題になることがあり、そのこととの関連で、他の教科に比べてアスペクトの副詞として用いられるオノマトベが現れやすいと考えられる。

以上見てきたように、国語科と他教科では、オノマトベの種類、統語的特徴については、共通する特徴が見られる一方、教科の特性と関係した違いがあることがわかった。

## 7. まとめと今後の課題

今回の調査結果から、小学校低学年用国語科教科書も、小学校中高学年用国語科教科書も、オノマトベの出現傾向、種類、統語的特徴を見たときに、いずれもテキストジャンルによる違いが見られるという共通点が指摘でき、そのテキストジャンル別の傾向も、両者で類似した傾向が見られることがわかった。

また、教科別に見たオノマトベの種類、統語的特徴については、教科を超えての共通点とともに、教科の特性と関係した違いがあることがわかった。

したがって、国語科や他教科の授業場面におけることばかけや指導では、対象とする子どもの学年を考慮するとともに、扱う教材のテキストジャンル、また教科の特性をふまえ、オノマトベを効果的に用いることが望ましいと考えられる。

本研究では、国語科及び他教科の小学校低学

年用教科書に見られるオノマトペの統語的特徴の傾向について明らかにすることができた。特に、国語科以外の教科書に見られるオノマトペを比較しながら分析した先行研究は見られなかったため、新たな知見となった。しかしながら、用いられやすいオノマトペを抽出したり、指導法まで検討したりすることはできなかった。また、国語科以外の教科については、調査対象とした教科書が限られ、小学校中高学年用教科書については調査することができなかった。

今後は、オノマトペ一つ一つのことばに注目し、国語科における指導場面や特別支援教育への応用を目指して、研究を進めていきたいと考える。

**付記** 本研究は、小峰（2023）の内容をふまえ、改めて調査対象を分析し、考察したものである。

## 注

- (1) 山崎製パンで、「ふんわり食パン」という食パンが販売されている。<https://www.yamazakipan.co.jp/brand/funwari/index.html>（最終閲覧2023年12月13日）
- (2) 山崎製パンで、「もちり食パン 湯捏仕込み」という食パンが販売されている。<https://www.yamazakipan.co.jp/feature/mochiri/index.html>（最終閲覧2023年12月13日）
- (3) 桑原（2016）の模様によるオノマトペの印象調査の際にも、雨に関する代表的なオノマトペとして挙げられている。
- (4) 小椋（2006）は、育児語を、養育者（大人や年長者）が子どもに話しかけるときの、大人同士が話すことばとは、音声面、語彙面、文法面、語用面で異なる独特のことばかけとしている。さらに、育児語の語彙面の特徴の一つとして、オノマトペの多用を挙げている。
- (5) 有働・高野（2007）は、養護学校における教師の発話の中で、「パンパンパンパン手はお膝」「お手々はパッ」は授業の開始の合図、「お手々をポン」は授業の終了の合図としてオノマトペを使用したり、リズム遊びをすることを伝える際に「トントントントンするで」と活動内容をオノマトペで代替したりしていた例を報告している。また、田嶋（2006）は、詩や漫画など読者の想像力の広がりを求める言語活動において、作者が作り出したオノマトペや一般的な使い方とは異なるオノマトペによって、読者が、作者がイメージする音や様態に近いイメージを想像できるとしている。
- (6) 本研究で言う「テキストジャンル」とは、王（2019）でも提示されている「テキストの内容ジャンル」のことであり、具体的には、3.3で述べるように、本研究で調査対象とした教科書に掲載されていた読むこと教材の文学的文章、説明的文章、詩の3ジャンルを指す。
- (7) 各教材の文の総数を調査し、そのうちオノマトペが現れる文の数の割合を算出した。オノマトペの個数が調査対象とした教材の中に現れる語の数の中でどのくらいの割合を占めるかということ明らかにしたものではない（文によっては、1文の中に複数のオノマトペが出現する場合もある）。
- (8) 「その他」には、(4)のように、複数のオノマトペの種類に該当するものを分類した（(4)の「ガリガリ」はニンジンをかじるときの様態を表すとともに、ニンジンをかじるときに生じる音を表すと考えられる）。本研究では、各オノマトペの種類の数に該当数を算出するにあたって、「その他」については考慮しなかったが、今後は、「その他」に分類したもののについても詳細に検討していく必要があると考える。
- (9) 田守・スコウラップ（1999）では、副詞用法をさらに様態副詞、結果副詞、程度副詞、頻度副詞の4つに下位分類しているが、本研究では、様態副詞、結果副詞、程度副詞に、益岡・田窪（1992）、日本語記述文法研究会（2010）における副詞の分類をふまえ、アスペクトの副詞とモダリティの副詞を追加し、これら5つの副詞用法を調査対象とする。また、ここで提示する統語的特徴の定義についても、田守・スコウラップ（1999）に加え、益岡・田窪（1992）、日本語記述文法研究会（2010）のものをふまえる。
- (10) 本研究で調査対象とした国語科以外の教科であるが、体育科は教科書が無かったこと、道徳は特別の教科であり、教科書を用いながら授業を行っているものの、学校教育全体を通して取り組む教科であることをふまえ、体育科と特別の教科道徳は調査対象外とした。
- (11) 本研究で調査対象とした、他教科の小学校低学年用教科書は、以下の通りである。（選定にあたっては、中央教育研究所（2022a）（2022b）を参考に、算数科については採用自治体数の多い教科書会社上位2社のものを、生活科については、記載がなかったため、理科と社会科で採用自治体数が最も多い教科書会社のものをそれぞれ取り上げた。図画工作科と音楽科についてはそれ



- それ2社のものしかないため、それらをそのまま取り上げた。）
- 算数科：東京書籍、啓林館／図画工作科：開隆堂出版、日本文教出版／音楽科：教育出版、教育芸術社／生活科：啓林館、東京書籍
- (12) 本研究で調査対象としたオノマトベの音韻形態は、田守・スコウラップ（1999）で提示されている以下のものである。（Cは子音、Vは母音、Qは促音、Nは撥音を表す。）（ ）内の例は田守・スコウラップ（1999）で挙げられているものである。）
- 1モーラを基本形に持つもの
- CV（ふ（と））、CVQ（ちゅっ）、CVN（ばん）、CVV（がー）、CVVQ（ばーっ）、CVVN（ばーん）、CVQ-CVQ（くっくっ）、CVN-CVN（ばんばん）、CVV-CVV（がーがー）
- 2モーラの語基を持つもの
- CVCV（がば）、CVCVQ（ばたっ）、CVCVri（ばたり）、CVCVN（ばたん）、CVQCV（どっか）、CVNCV（むんず）、CVQCVri（ばっさり）、CVNCVri（ほんやり）
- (13) オノマトベの種類（擬態語、擬音語、擬声語、その他）については、本研究で抽出したオノマトベのうち、『日本語オノマトベ辞典』に掲載されているものについて分類を行った。よって、表2の学年別のオノマトベの合計数が、以下に見る、統語の特徴から分類したオノマトベの学年別の合計数よりも少なくなっている。表6、表9についても同様である。
- (14) 表3によると、小学校低学年用国語教科書の場合、引用用法が文学的文章において、1年生では7.2%、2年生では19.8%となっている。一方、他教科においては、表10からわかるように、引用用法は全く見られないか、見られても、1%前後にとどまっている。
- (15) 小学校低学年用国語教科書では、表4からわかるように、テキストジャンル別では違いが見られるが、全体としては（合計では）、様態副詞の割合が最も大きくなっている。
- 参考文献**
- 有働眞理子・高野美由紀（2007）「養護学校小学部の授業に見られるオノマトベ的発話—対話活性化の言語学的要因—」『学校教育学研究』19、pp. 17-26
- 王思閔（2019）「小学校中高学年用国語教科書に見るオノマトベ使用—学年およびテキストジャンルの影響の解明と汎用的オノマトベの抽出—」『コーパスと文体論のインタフェース2018発表論文集』、pp. 29-45
- 岡谷英夫（2015）「小学校国語教科書に見るオノマトベと日本語教育」『人工知能学会論文誌』30-1、pp. 257-264
- 小椋たみ子（2006）「養育者の育児語と子どもの言語発達」『月刊言語』35-9、pp. 68-75、大修館書店
- 小野正弘（2007）『日本語オノマトベ辞典：擬音語・擬態語4500』小学館
- 桑原明栄子（2016）「オノマトベの可視化—模様による天候のオノマトベの可視化に関する調査—」『可視化情報学会誌』36-140、pp. 29-32
- 小峰咲季（2023）「小学校国語教科書に見られるオノマトベ—他教科・他学年との比較から—」令和4年度広島文教大学教育学部教育学科卒業研究論文
- 笹本明子（2007）「オノマトベの名詞修飾について」『奈良教育大学国文：研究と教育』30、pp. 64-52
- 高野美由紀・有働眞理子（2010）「養護学校の教師発話に含まれるオノマトベの教育的効果」『特殊教育学研究』48-2、pp. 75-84
- 田嶋香織（2006）「オノマトベ（擬音語擬態語）について」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』16、pp. 193-205
- 田守育啓（1998）「日本語オノマトベ—多様な音と様態の表現—」『日本音響学会誌』54-3、pp. 215-222
- 田守育啓・スコウラップ、ローレンス（1999）『オノマトベ—形態と意味—』くろしお出版
- 中央教育研究所（2022a）「2023年度 長崎県 小学校・中学校 教科書一覧表」（2022年10月更新）
- 中央教育研究所（2022b）「2023年度 広島県 小学校・中学校 教科書一覧表」（2022年10月更新）
- 妻藤純子（2021）「図画工作科における技能指導へのオノマトベ活用の試み—鋸の扱い方指導を通して—」『岡山理科大学紀要・B, 人文・社会科学』57、pp. 63-70
- 中里理子（2005）「教科書教材に見るオノマトベ—特徴の整理とそれを踏まえた読解指導との関連を目指して—」『上越教育大学研究紀要』25-1、pp. 1-14
- 日本語記述文法研究会（2010）『現代日本語文法 1 第1部 総論 第2部 形態論 総索引』くろしお出版
- 益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語文法—改訂版—』くろしお出版
- 三上京子（2002）「日本語オノマトベ指導に関する研究」『日本語教育方法研究会誌』9-2、pp. 4-5
- 森保尚美（2014）「初等音楽科教科書におけるオノマトベ—教育目的から見た出現数の学年差—」『音楽文化教育学研究紀要』26、pp. 97-104
- 文部科学省（2021）『小学校用教科書目録（令和4年度使用）』